

通信小海

災害と知恵

牧師 水草修治

今度は、アメリカ西海岸シアトルで地震だ
という。このところ世界の、日本のあちこち
で地震や火山の爆発のニュースを耳にする。
こうした災害のニュースを聞くたびに思い
出されるのは、次の主イエスのことばであ
る。

「ちょうどそのとき、ある人たちがやってき
て、イエスに報告した。ピラトがガリラヤ人た
ちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえ
に混ぜたといつのである。イエスは彼らに答え
て言われた。『そのガリラヤ人たちがそのよう
な災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人

【今月のみことば】

「だから恐れることはありません。
あなたがたは、たくさんの雀よりも
すぐれた者です。」マタイ十三：一二

よりも罪深い人たちだったとも思うのです
か。そつではない。わたしはあなたがたに言
います。あなたがたも悔い改めないなら、みな
同じように滅びます。またシロアムの塔が倒
れ落ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住
んでいるだれよりも罪深い人たちだったとで
も思うのですか。そつではない。あなたがたも
悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

(ルカ福音書十三章)

ドキリとしないだろうか。私たちはすぐに
他の人を指差して非難する。まるで自分が世
界の審判者にもなったかのようなのである。け
れども、主イエスは、「思い上がってはいけ
ない。君たちは審判者ではなくて、むしろ被
告人なのだ。審判者は神のみだ。」とおつし
やる。

以前、キリスト教を名乗るある新興宗教の
二人組みが玄関口に来てこう言った。「キリ
スト教会が多くある長崎に原爆が落ちたの

日本同盟基督教団 松原湖高原教会 牧師水草修治

牧師館 長野県南佐久郡小海町大字豊里一六六 一

〒三八四一一三 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

黄色い十字架 パロの五十メートル北
ヤナシヨウの向かい

集会あんない

日曜日

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日

聖書を読む会 午前十時半

祈り会 午後七時半

*初めての方も歓迎します。
*個人的相談にも乗ります。

はなぜですか？」私は心に「非情なことを言うなあ。」と思いつつも即座に返答できなかったのだが、主イエスならば彼らに、「長崎の人々が誰よりも罪深かったというのですか。あなたがたも悔改めないならば、同じように滅びます。」とおっしゃっただろう。

私たちのうち一人として、神の前に悔改める必要のないような正しい人はおらず、人を罪に定める資格のある者はいない。それなのに、私たちはいつい人には厳しく、自分には甘く量りがちではなからうか。自分に対する神のさばきの基準は、自己申告制になっている。神は、あなたが他人を量る基準でもって、あなたをお量りになる。だから私たちはあわれみふかく寛容であることがたいせつなのだ。

「あわれみを示したことのない者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。」(ヤコブ書二十三)

神を畏れること

もう一つ、災害、特に地震や火山の噴火などの自然災害を見るときに痛感させられるのは、人間というのはつくづく無力なものだということではなからうか。ロケット、コンピュータ、クローン技術によって、人間は神の領域まで触れようとしていると豪語する科学評論家もいる。しかし、火山が噴火し大地が揺るげば、科学評論家もたまたま怖じ惑って、逃げ出すほかはない。昔の人たちがそこに神の怒りを見出したことは、迷信として片付けて済ませてよいことではない。むしろ科学万能主義こそおろかな迷信なのである。

自然災害に遭うとき、私たちは知恵を得る。自分が有限な存在にすぎないことを思い出すからである。聖書の言うほんとうの知恵とは、多くの知識をもっていることではなく、自分の限界をわきまえることである。無限の神の御前で、自分がちりから造られた被造物にすぎないことを思い出して、謙虚になることである。やがて、創造主の前でさばきにあうべき被告人であることを思ふことである。

私たちの齢は七十年。

健やかであつても八十年。

しかも、その誇りとするところは

労苦とわざわざです。

それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

だれが御怒りの力を知っているでしょう。

だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。

その恐れにふさわしく。

それゆえ、私たちに

自分の目を正しく数えることを教えてください。

そうして私たちに

知恵の心を得させてください。

詩篇九十：十一

一羽のすずめ

「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」

二羽のすずめは一アサリオンで売っているでしょう。そんなすずめの一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。またあなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。

だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんのすずめよりも優れた者です。

ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないというような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。」

主イエスのことば

日ごろキツネや熊を恐れてびくびく生活しているウサギやリスが、まったくこれらを怖がらなくなることがあるそうだ。それは山火事のときである。小動物たちは、山火事になると、これら捕食動物の前を平気で走って逃げるそうである。山火事というはるかに恐ろしいものがあるからである。

人目が怖くていつもびくびくと生活をしている人が、案外多い。人が自分のことをどんな評判を立てているか、噂をしているのかということに、心悩ませて病気になるという人さえいる。けれども、真の神を畏れるようになるならば、人にびくびくしたりへつらったりする必要がなくなる。といって、利己的になるわけでもなく、むしろ、自由な心で人に喜んで奉仕するよつな生き方をするこゝとが許されるよつになる。

神様を知らない人、人と比べて自分のほうが上だと優越感にひたつたり、自分のほうがだめだと劣等感のとりこになったり、そういうむなししい思い煩いのなかで生涯をむだに過ごしてしまうことになる。筆者もかつてそうだった。

けれども、こんなちっぽけな私という人間

を天地の創造主が愛していただくことを実感するようになると、劣等感や優越感から自由にされてしまった。この神を畏れる生活をしていると、安心である。

一羽五円のすずめさえ父なる神の許しが必要ならば地に落ちることはない。また天の父の許しが必要ならば、髪の毛一本とて抜け落ちることはない。だとすれば、四十を過ぎて生え際が後退してきていることに、あまり悩むこともないのだ！（と自分を励ます。ところが「はげます」ということばは、なぜか「ハゲ増す」と同音である。）こんな自分が天地万物を造られた神様に愛されていると知るならば、なにを怖がる必要があるだろう。

創造主があなたに注いでいてくださるという、この愛の実感は、ただイエス・キリストを通してのみ経験することができる。あなたにもイエス・キリストを知って欲しい。

旅と訓練

「神様の教育方法とはなんだと思いますか？」十数年前、朝、公園で息子と散歩する知り合いの牧師にばったり出会って、いきなりこんな質問をされたことがあった。

『神様の教育方法ってなんだろう？聖書通読？教理問答書？ちがうなあ。それとも・・・』などと思い巡らしていると、その牧師はことばをついで言った。「私はね、神様の教育方法は、旅だと思っんですよ。神様はアブラハムを故郷から召し出して、旅に出させられた。その孫ヤコブも旅に、イスラエルの民も荒野を旅させられた。イスラエルの民は定住を始めたときに、墮落し始めた・・・そして主イエス様も弟子たちを旅のなかで訓練されたし、使徒パウロも旅から旅の生涯のなかで神に訓練を受けたのではなかったかなあ。

だから、私は、自分の息子には早く親元

を離れさせて、旅をさせてやりたいと思っっているんです。」

なるほど、その通りだと目からウロコが落ちる思いがした。今もそのことばが胸に残っているゆえんである。

この春、就職で、あるいは進学でこの安住の地、南佐久を後にして旅立つ若者たちが何人もいるだろう。どのような出会いがあるだろう。こちらから声をかけなければ、誰も声かけてくれない新しい生活環境の中、寂しいこともあるだろう。生き馬の目を抜くような職場で、叱られたり裏切られたりしてショックを受けることもあるかもしれない。

さまざまな困難にぶつかっても、人をうらまない、人のせいにしなないこと。かといって、なんでも自分のせいだと抱え込まないこと。そのためには、これら一つ一つの出来事を通して、神様が私を訓練してくださっているのだと、天を見上げることである。そんな日々の中で、十字架をかけた教会を訪ねて心澄ましてみことばに耳を傾けることも有益。自分に対する神様の愛の計画を知ることができれば、さまざまな困難も乗り越えるのに必

要な希望も勇気も知恵も与えられるだろう。息子や娘を送り出す親としては、心配が絶えないだろう。せつかく所期のところに進んでも五月病にはならないだろうか。また都会は誘惑の多いところ。どんな悪の道にだまされて誘い込まれるかわかったものではない。ヤクザもいよう。わけのわからないカルトもあるだろう。心配していたらきりが無い。祈るほかない。

送り出す親にとっても、神様からの訓練のときなのである。親も子どもから自立して、ただ神に祈って生きる人生へと備えるべきときがきたのである。夫婦ならこれからは子どもをダシにした夫婦関係を終えて、二人でもう一度向かい合って残りの人生を生きる準備段階にきたのである。

主なる神は私たちを生涯訓練して、良い実を結ばせよとなさる。

「訓練と思っって耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っっておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。」（へブル書十二七）